

中央市場再整備の方向性について

1 課題とこれまでの検討状況

広島市中央市場は、昭和 5 6 年の開場から 3 5 年が経過し、施設の老朽化が進行しています。昨年度、耐震診断を行った結果、市場の主要施設である青果、水産、花きの各卸売場棟の耐震強度が不足していることが判明しました。

このため、学識経験者や市場関係者で構成する「中央市場整備検討会」において、耐震改修か建替かについて検討を重ねてきました。

2 検討内容

(1) 耐震改修について

耐震化の工法すべてについて検討した結果、次のとおり、耐震改修は適切ではなく、全棟建替が望ましいこととなりました。

ア 青果棟及び水産棟

耐震基準を満足させるには、ほぼすべての柱間に筋交いを設置する必要があるため、作業車の動きが著しく制限され、物流機能に大きな支障が生じることから、耐震改修は適切ではない。



筋交いを設置したイメージ

イ 花き棟

変形筋交い（アーチ形）を用いることで耐震基準を満足できるが、この工法でも作業車の動きが制約を受けることや、依然として建替の必要性は残るため、花き関係事業者は、青果・水産棟と同時の建替を希望している。



変形筋交いを設置したイメージ

(2) 建替について

ア 現地建替

次のとおり、現地のメリットを活かした再整備が可能です。

- ・ 現地は敷地が広く、効率的なローリング工事が可能である。
- ・ 周辺環境についても、関係業者の集積と幹線道路の整備が進んでおり、物流拠点としてのインフラ条件が整っている。
- ・ 商工センターの活性化検討と整合を図りながら、連携して地域の発展に貢献できる。

イ 移転建替

移転先として、主に次の要件が必要ですが、現時点では適切な候補地がありません。

- ・ 20ha 程度の整形地であること。
- ・ 現市場周辺の関係業者の移転用地も確保できること。
- ・ アクセスが良好であること。
- ・ 周辺住民の理解が得られること。

3 中央市場整備検討会での取りまとめ

平成 2 8 年 1 月 2 0 日に開催した「中央市場整備検討会」において、青果、水産、花き、関連事業者の各部会の意向を踏まえ「できるだけ早期に現地で全棟建替が望ましい」との方向性が採択されました。

4 再整備の方向性

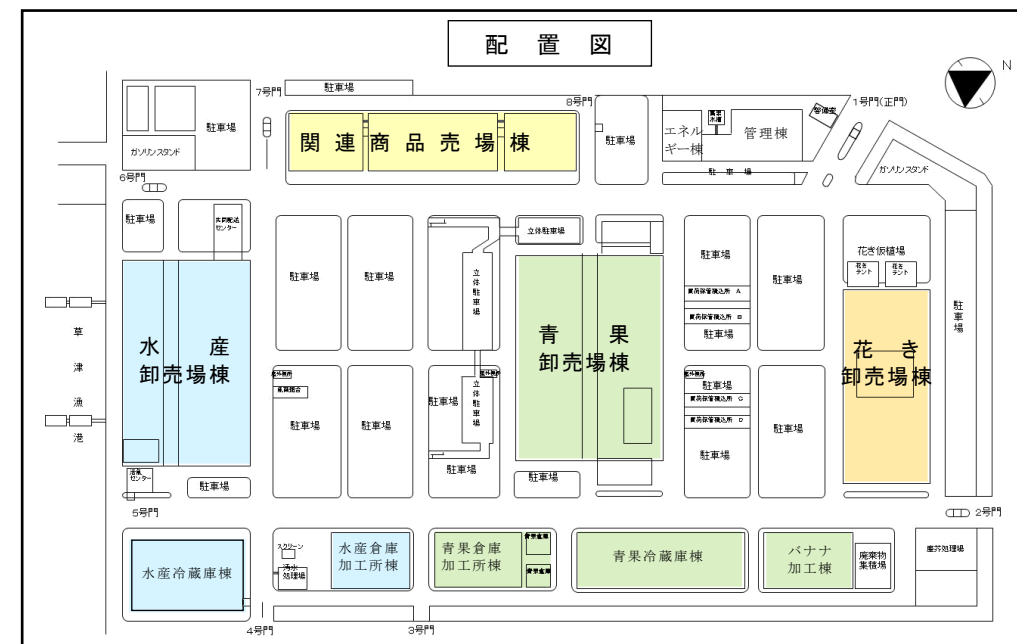
本市としても、「中央市場整備検討会」の取りまとめを受け、中央市場の再整備の方向性は「できるだけ早期に現地で全棟建替」とします。

5 計画づくりに当たっての基本的事項

- (1) 生鮮食料品等の流通を担う基幹的な社会インフラとして、場内物流の効率化や温度・衛生管理など品質管理の高度化を図ります。
- (2) 災害時にも食料品の供給拠点として継続性を確保するため、災害に強い市場とします。
- (3) 事業費の節減と場内事業者の使用料負担の軽減を図るため、事業手法、市と場内事業者との整備分担、適正な施設規模や仕様、配置等について検討します。
- (4) 広島市だけでなく近隣市町を含めた広島広域都市圏、さらには中国四国地方の拠点市場となるよう市場全体の活性化を目指します。
- (5) 商工センターの一角に立地する市場として、商工センターの活性化検討と整合を図りながら、立地を活かした賑わい機能の付加について検討します。

《参考：中央市場の概要》

- (1) 所在地 広島市西区草津港一丁目 8 番 1 号
- (2) 業務開始年月 昭和 24 年 10 月 10 日（現市場移転 昭和 56 年 10 月 12 日）
- (3) 取扱品目 青果・水産物・花き
- (4) 敷地面積 2 4 万 2 千㎡
- (5) 建物延床面積 1 0 万 8 千㎡
- (6) 取扱高(平成 27 年) 青果：約 3 5 1 億円 水産：約 2 9 3 億円 花き：6 3 億円



凡 例	面 積
青果卸売場棟など	37,800㎡
水産卸売場棟など	31,300㎡
花き卸売場棟	10,200㎡
関連商品売場棟	13,100㎡
その他	15,600㎡
合 計	108,000㎡